

マザーハウス

たより

**あなたは愛されるため、また、愛するために生まれてきたのです。
あなたが必要であり、大切です。マザーハウスはあなたの家族です。**



表紙：エイル・Nさん

2023

4

月号

- | | | | |
|----|---------|----|------------|
| 2 | 理事長挨拶 | 18 | 健康相談窓口 |
| 4 | 塀の中のたより | 19 | ラブリー DAY |
| 10 | アート展情報 | 20 | プリズムアート倶楽部 |
| 14 | 面会体験記 | 22 | 回復プログラム 実践 |
| 15 | 育児日記 | 22 | 行事予定 |
| 16 | 逆風と波の中で | 23 | お知らせ |

理事長挨拶



キリストの復活、おめでとございます。私事ですが、娘のKちゃんが小学1年生になりました。月日の流れは早いものですが、子供たちが仲良く遊んでいる姿に疲れも癒され、どんなに苦しいときでも頑張っていこうと思えます。3月末にマザーハウスの仲間たちと私の家族とで、桜を見ながらお弁当を食べました。子供たちも参加して楽しいひと時を過ごしました。

残念ながらマザーハウスで2年間、共に歩んできた仲間が窃盗罪で起訴され、求刑6年で懲役3年6ヶ月の実刑判決を受けました。仲間たち、支援者もとてもショックを受け、面会に行った際は共に涙を流しながら話をし、彼に対して「信じていたのよ。どうして?」とボランティアの方々は涙ながらに語り掛け、「待っているからね、あなたが回復することを私たちは信じていますからね」と伝えていました。こんなに暖かく、自分のことを大切にされたのは生れて初めてです。「必ず生きて戻ってきます」と彼は答えていました。覚せい剤、窃盗、性犯罪者の回復はとても難しいです。本人が変わる気がなければ無理です。

先日覚せい剤の方が当法人に来ましたが、保護観察所で観察官から言われたことで自分を見失い、もうどうでもいいと投げやりな状態でした。私にできるのは祈ることだ

けです。聖書のローマの信徒への手紙5章に「そればかりでなく、苦難をも誇りとします。わたしたちは知っているのです、苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということを。希望はわたしたちを欺くことがありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。」とあります。彼がこの試練(苦難)を乗り越え、共に歩むことを願っています。社会復帰への回復の道はとてつもなく時間がかかるし、多くの人の忍耐と支えと真の愛が必要です。

受刑者のみなさんに考えて頂きたいことがあります。「私は大丈夫」が一番危険なのです。自分は危ない人間であり、再犯の恐れがある。だから自分にとって危ないところ、危険な場所には絶対行かない。昔の悪い仲間とは一切関わらない、ということを経験に銘じるべきだと思います。私は復帰したその時から酒、たばこは一切やらないと決め、神様に実践できるように祈りました。だから10年以上も酒、たばこはやっていません。何故なら自分にとって危険だからです。

また、ラブレタープロジェクトについて、何故、当法人が文通交流をしているかです。回復には社会との繋がりと社会での土台が必要だからです。復帰後、社会で生きて行くからです。しかしながら、この文通交流を淋しいから、女性と文通したいという身勝手な目的で参加し

ている人が多いように感じます。自分の欲望のために文通者を利用して、物の要求や依頼事をする人がいるようです。今後、発覚した段階で文通プロジェクトを中止しようと思っと思っています。ある人たちから、意味がないというご意見を頂きました。貴重な時間を捧げて文通している人たちのことを良く考えて頂きたいです。自分にとって何の目的で文通しているのか、深く考えて頂きたいです。受刑者に対して社会の人たちがどんな思いでいるかをよく考えて頂きたいです。当法人が一生懸命啓発活動をしていますが、それを理解し、文通に参加してくださる方はごく一部の人たちです。それだけ自分とは関係ないという無関心なのです。そのことは、みなさんの行動にも原因があると思います。

私は受刑中、文通を通して様々なことを学びました。そして人との繋がりを持ち、今でもその関係は続いています。そして関係者の人に女性と文通をしたいなど一度も言ったことはありません。そのようなことを当法人に言ってくるのが不思議です。自分が逆の立場だったら、どんな気持ちになるでしょうか？そして、自分がいる場所はどこなのか、何でそこにいるのかということ。そのことを理解しているのでしょうか？きれいなことを書いて送ってくる人がいますが、刑務所から他の施設に移動したり、社会復帰しても何の連絡もないです。また、社会復帰したら訪ねて来ることもなく、再び刑務所に入り、連絡がきまず。何のために当法人に連絡をしてくるのでしょうか？

私はみなさんに反省などは求めません。求めても反省などできないからです。反省ができる人は刑務所にはいないと思っっています。但し、悔い改めは必要です。何故なら聖書に書いてあるし、それを実践できる人は回復するからです。そしてキリストの愛を知りましょう。勘違いしないでいただきたいのは、キリスト教の信者になりなさいということではありません。キリストの愛を知り、その真の愛を実践することです。簡単に言うなら、目の前の人を大切にすることです。そして忘れないでいただきたいのは、「自分を変えるのは自分」ということです。そして正直に生きることです。これはとても厳しい道です。だから私はキリストに祈り、キリストに生きたいと思うのです。そこに復活があるからです。

先日、西鉄バスジャック事件の被害者である方とお話する機会をいただきました。とても壮絶な体験であり、深い話であり、大いに学びました。被害者にも加害者にも話をする場所が必要で、双方に支援者が必要であり、それが今の日本には不十分であると感じました。受刑者のみなさん、自分のことを正直に言える場所がありますか？正直に言える仲間や相手がありますか？私にはそういうことを話せる方がたくさんいます。だから回復の道を歩むことが出来るのだと思います。犯罪からの解放です。しっかりと考えてお手紙を頂ければ幸いです。

塀の中のたより

一つの個性

K刑 エンポリオ・イワンコフさん

突然ですが、皆さんはLGBTQという言葉を知っていますか？LGBTQとは、レズビアン・ゲイ・バイセクシャル・トランスジェンダー・クエスチョンの頭文字を取った言葉で、性的少数マイノリティーとも呼ばれています。

私は某女子刑務所に収容されている懲役受刑者ですが、LGBTQの内の1つであるT（トランスジェンダー）です。戸籍上女性で産まれてきましたが心が男性で、心と体が一致しない性同一性障害です。小さい頃から「何故俺は女の子と言われるんだろう？」と悩みながら生活してきて、小学校に上がってからはその気持ちが強くなるばかりで次第に学校に通わなくなりました。親からも「気持ちが悪い」と言われ虐待を受ける日々で、小学校4年生の頃から家出を繰り返し犯罪をして生活をし、施設を出たり入ったりの生活でした。しかし、どこに行っても収容されるのは女性の方

受刑者からの手紙

受刑者からマザーハウスに寄せられた手紙を紹介します。



で、そのたびに自分という存在が否定される気持ちになっていました。

私は未成年の時に2回少年院に入院していました。少年院では学校と同じように制服があり、いやでもスカートを着なければいけませんでしたが、2回目の入院中に法律が少しずつ変わり施設によってはLGBTQの人に対しての処遇がきちんと整備され、私もズボン着用が認められました。しかし刑務所は違います。私は服役して1年目ですが、逮捕され刑務所に入所するまではホルモン注射という男性ホルモンを体内に取り入れて生活していました。私のような性同一性障害の人は男性ホルモンまたは女性ホルモン（体は男性で心が女性の場合）を取り入れなければ体は戸籍上の性別に戻っていくのです。なので刑務所に入所してからずっと「ホルモン剤を投与させて欲しい」と訴え続けて来ましたが、刑務所側からは「女性だから必要ない」の一点張りでした。指名医制度を使用して自費でやると申出をしても「打たなくても死ぬような病気じゃない」と言われました。

私は毎月生理が来るたび「お前は女なんだ」と



言われている感覚に陥り、とうとうタブーである自殺をしようとし発見され一命をとりとめてしまいました。

調査の先生は男性、女性1名ずつの先生が付き調書をとられました。自殺をしようと思った理由を聞かれた際「生理が来て体が女になっていくのが苦痛だった。死ぬような病気じゃないと言われたが、体が女に戻っていく恐怖を毎月味わわれて心が死んでいっても同じことと言えますか？」と答えたら、女性の先生からは「あなただけじゃなくここにいる女性みんな毎月生理でしんどい思いをしている」と言われ、男性の先生からは「そんな事で死にたいなんて逃げだ」と言われ、普通に心と体が一致して産まれて来た人達には心と体が一致しない人の気持ちは分からないし、理解しようと思う気持ちすらないのだと改めて実感しました。

刑務官はよく「人の気持ちを考えろ」と言います。人の気持ちを考えず自分勝手な生活を送り、事件を起こし捕まり刑務所に入ったので、先生達が言う事は正しいです。しかし「人の気持ちを考えろ」と言う官側は、私達受刑者の気持ちは考えなくてよいのかと疑問に思いますが。たよりを読んでみると「これはあまりにも酷いな」と思う処遇の事が書かれており、刑務所は理不尽という所か人権というもの存在しないんだと感じています。

そして私の場合ですと、高齢者の方、持病や疾病の方

等刑務所には沢山の人が居てその人それぞれに合った治療受けられますが、何故LGBTQだけ治療不可になるのか私には理解しがたいです。私が今回こうして気持ちを伝えようと思った理由は2つあります。

一つは、たよりを読まれている方の中にもLGBTQで悩んでいる人が居たら、悩んでいる人はここにも居て決して一人ではないと伝えたかったからです。偏見や差別的発言が未だ無くなる事はないけど、どこかの刑務所で同じように頑張ってるんだと思ってるからです。

そしてもう一つは、誰かが声を上げないと社会の人には何も知られないまま終わってしまうからです。すぐに今の現状が変わると思っていまませんが、発信する事で閉鎖的な刑務所の事を外に出せるのかと私は思っています。

そして最後に私が伝えたい事は、このたよりを読んでいる方達が少しでもLGBTQという言葉を知って頂き、そしてLGBTQは変な人や気持ち悪い人ではなく一つの個性、また一人の人間として対等に付き合ってくれたら嬉しいです。刑務所に居る間は私はずっと独居で辛いですが、全国にいる同囚の方達に負けられないよう私も弱音を吐かず残刑頑張るって勤めます。皆さんも沢山辛い事あると思いますが挫けず頑張ってください。

新年の抱負

N刑 Nさん

三月、私は、十年の刑期を待たずに社会復帰します。私は恵まれています。多少の貯金もあるし、帰る場所も仕事も、当面の生活にかかわるものも準備ができています。ブランクもあり、体力の衰えもある。様々な策もあるだろうと私を支えてくれている人たちのおかげです。だから私は、それに応えなければなりません。少々の苦しさも苦しいと言えず、辛いことも辛いと言えず。不安は、もちろんある。それでも耐え忍ぶ。洗濯工場にいた時、被害妄想のいかれた奴に暴行を受けた。出血を伴うけがをさせられた。にも拘わらず喧嘩両成敗でかなり重い不当な処分を受けた時には、自暴自棄にもなりかけた。が、堪えた。これからは、ここで耐え忍んだことよりも価値のある、喜びを伴う苦難。また、万全でなくとも有り余る時間の中で努力してきた。そして今年、それを結果に結びつける。不安も怖さもあるが、それを楽しもうという強い気持ちもある。MLP（文通）で長年にわたりシスターから頂いたかぞえきれない御言葉に自分を鼓舞し、時に涙した。マザーハウから毎月送られて来るたよりにや冊子は殺伐とした生活に華を添えてくれた。感謝しかない。私は甦ります。「苦しさ辛さを楽しむ。」「これが私の新年の抱負です。有難うございました。

25年ぶりの 雑居生活を体験して

I刑 リンリンさん

昨年12月27日に工場の人がコロナに感染して午後から作業停止となり、部屋に戻されました。まず雑居の人が返され、1類の独居で生活している私を含めた何人も独居に帰るわけにはいかず雑居に入ってもらおうと言われ、ガンと大変なショックと不安に襲われながら、割り当てられた部屋に入りました。1人昔同じ工場だった人がいましたが、あとはほとんど話したことのない人たちばかりの部屋でどうなることかと思いましたが、雑居さんが来てくれた良かったと歓迎してくれ一安心しました。おとなしい人の多い部屋で私自身もあまりしゃべる方ではないので居心地がよく、何日か過ごしているうちに慣れていろいろなことが見えてきました。

不正行為が当たり前のように行われていて、私は見てもみぬふりをしていましたが、私が雑居にいた頃は（もう大昔のことですが）、こんなにひどくはなかったと思います。私は今は意志が強くなっているので巻き込まれることはないし、相手も私を1類として特別視しているのも何も言ってくるません。25年ぶりの雑居生活はちょっと楽しかったけど、やっぱり1人がいいなと改めて感じ

ました。

そしてコロナにかかっていない人がまた違う雑居に集められ、全員が独居に住んでいる役のついている4人が一緒になったのですが、違反などはないものの、人の悪口や噂話しかせず、私はそういうのは興味もないし好きではないので、とても苦痛でした。そういう話をしている時はCDを聴いたり寝たり、話に加わることはせず聞いていただけでえげつなく女の嫌な部分を見ました。

これも雑居生活をしたことよって、自分は決して違反をしないし、人の悪口を言わないと強く思えたので、良い勉強になったとポジティブに考えています。主任さんに初心に戻れとずっと言われていて、なかなかうまくいかなかったのに、この経験によって初心に戻ることができた気がします。それに1類として独居の1人部屋にいられることに改めて感謝の気持ちがありました。それが当たり前ではないということも考えました。私は強運なことにコロナには感染しなかったのですが、雑居生活を経験しましたが、刑が確定して27年がたち、この経験を今することであろうと考えたり、人の嫌なところを見て反面教師にしたりできよかったと思うようにしています。

受刑者からの手紙

受刑者からマザーハウスに寄せられた手紙 - つづき -



残刑4年

T刑 Nさん

早いもので残刑が4年を切りました。私にとっては娑婆が見えてきました。嬉しいです。刑務所のおかげで今は、覚せい剤、お酒、タバコ、精神安定剤、眠剤 全てのドラッグを止めているので、頭と心の中がスッキリしています。スーパークリーンです。逮捕されて5年が経過していますが、今だ覚せい剤はやりたいです。どうしようも無いですね。残りの刑期考えます。

刑務所では毎日勉強もしっかりしています。漢字検定7級から初めて現在は、準2級を学習しています。とてもたくさん漢字を覚えたことで読書がとても楽しくなりましたし、勉強が楽しくなりました。色々学んだことで英語とか簿記とかも本当はやりたいたのですが、漢字の勉強をしていると全く終わりが見えないのです。子供頃しっかり勉強しておけばよかったです。今考えると勉強は本当に大切な事だと理解しました。もし、しっかりと勉強していたら刑務所に来なかったのではないかと思います。

■ 今までの人生とこれから

S 刑 H さん

本とたより1月号が届きました。ありがとうございます。ございます。すべてではないですが、送られてきた本、たよりなどに目を通し、考えながら読ませていただきました。「私は考える」ということが苦手で43歳までそういう習慣がなく、深く考える発想もなく、意味も分からず何のために生きてるのかも考えた事がありませんでした。今も、その答えは出ませんが、この先どんな人生になっても犯罪をしない決意を持つことができています。先日、兄におたよりを出しました。年齢的にもうかなわない可能性が高いですが、母や兄に会いたい。今回で最後にするからと伝えました。私は5度目の受刑生活になりますが、兄から手紙で母が落ち込んでいる姿を聞かされ、胸が苦しくなり、自分の事しか考えてこなかった今までの人生が恥ずかしく、後悔するばかりです。

今は、あせらず気持ちが落ち着いたときに物事を考えるようにしています。前刑の時はどういう気持ちで生活していたか？外に出てどうしたか？過去を振り返ったりして考えています。2月には裁判があり、求刑があるとの事です。自分がした

受刑者からの手紙

受刑者からマザーハウスに寄せられた手紙を紹介します。



ことだから全てを受け入れなければならぬと思いますが、色々な事を考えてしまい、心が揺らいでしまいます。自分のゴールは決めているので、たよりや書籍等を読んで自分のものにしていきたいと思います。

■ 出合いに救われた受刑生活

S 刑 アフロ犬さん

私の9年に及ぶ受刑生活もついに残刑1年4ヶ月となり、最終局面を迎えている。もうすぐ私の拘禁生活も8年になるが、様々な出合いに救われてここまでやって来れた。

受刑生活が始まった当初、私は判決を受け入れず絶望していた。そこから救い出してくれ、希望を与えてくれたのも、ある人との出合いだった。その人は私の事情を理解してくれ、今後の共闘を誓ってくれた。残念ながら同じ工場最後まで務めることは叶わなかったけれど、絆を守るための意地の懲罰だったので後悔はない。

その後は理不尽な喧嘩を抑制しただけで懲罰を

与えられた。やけになりかけた所を、今度は同世代の仲間
間に救われた。そいつからは、パワフルに生きること
を学んだ。そこで運動時間のトレーニングを覚えて、運動
会準優勝を経験した。仲間と共に生きる楽しさを教えら
れた。

しかし、この工場で最後まで務めることもできなかつ
た。意味不明な班長によるチンコ口劇にはめられて、不
正を実行した馬鹿な職員に名前を出されての取り調べ拘
束。こんな狂言だけを証拠にできるはずもなく当然解除
になったものの、何人かは認めて懲罰を受け、私も転業
となった。正直、もうどうでも良かった。投げやりになっ
ていた。

だけど、ここでもまた出会いに救われた。本来絶対に
出会うことのないはずだった先輩と出会い、多くを学ん
だ。神父のような心で導いてくれた。そして若き力から
は尻を叩かれた。「ヤッターレイ！」と覚悟を決めるしか
なかった。だけど、そのおかげで迷いは消えた。そして、
キム兄のギャグをかます職人さんから木工の技術を学
び、作業も有意義なものになった。それぞれが癖も強め
で、個性的で、パワフルな上に面倒なところもあるけれ
ど、心が一つになった時の破壊力は半端じゃなくて、運
動会では圧勝だった。最高の思い出として胸に刻まれて
いる。

そんな中で1年以上が経過し、今年は次々と出所によ
る別れを経験することとなった。残る立場としては寂し
くなるが本来生きるべきは社会であり、次のステージで
の再会のためには避けて通れない喜ぶべき行事だ。

私は今回の務めの中で自分の弱さと無力さを知り、人
との出会いがもたらすとてもつもないパワーを肌で感じ
た。そんな仲間達と社会で再会し、そこから自分の未来
がどう変化するのか今から楽しみで仕方無い。私は今、
人との出会いの奇跡にただ感謝している。

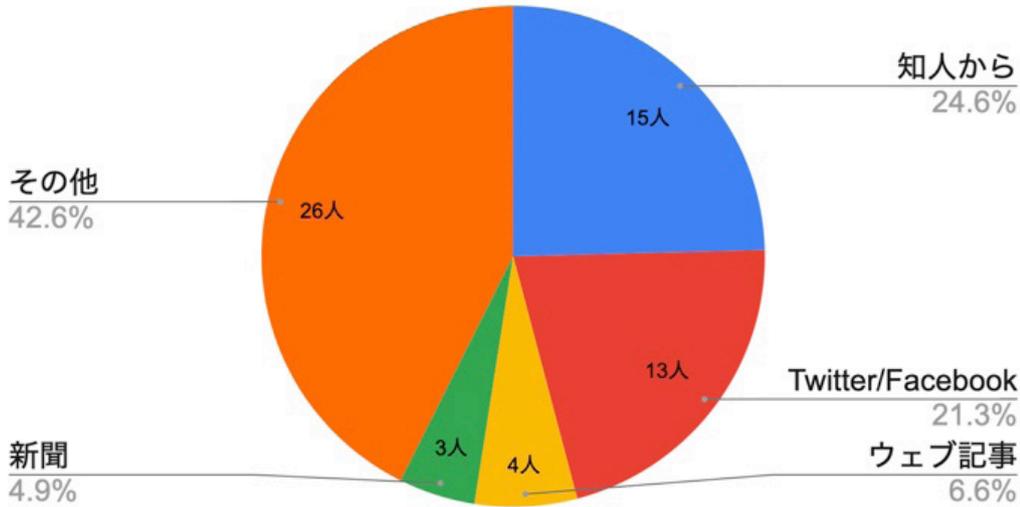
文通交流

〇刑 Gさん

文通を通して人のやさしさに触れることによって、自
分自身がやってしまったことで被害者の方たちや周りの
人たちに迷惑をかけたことを深く考えさせられることも
に、自分の周りにもまだ見捨てずに見てくれる人たちが
いるんだと思い、次に自分が何をしなければならぬの
かを考えることができました。

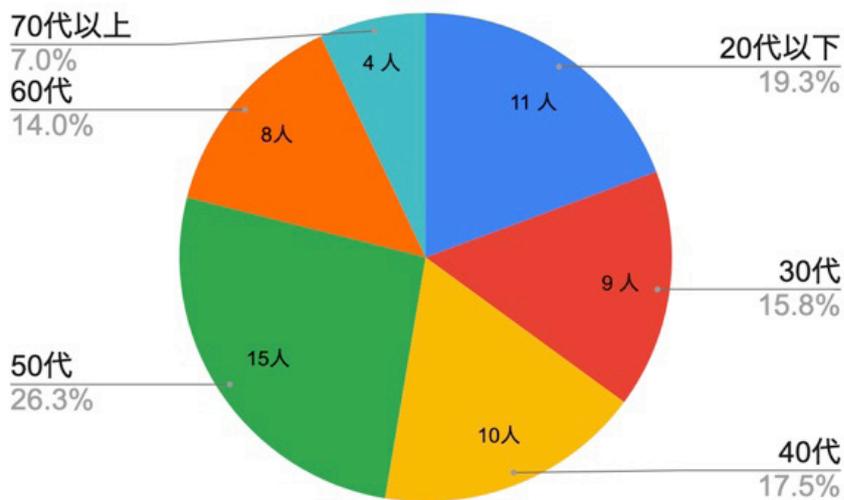
今年2月17日～3月5日に開催した刑務所アート展にて、来場して下さった皆様にアンケートへのご協力をお願いしました。その回答の一部を紹介させていただきます。

Q1. 本イベントをどこで知りましたか？（複数回答あり）



※“その他”は、NHK ニュース、通りすがり、展示情報、そばの会ピラ、デミカフェ、マザーハウス

Q2. 年齢を教えてください。



Q3. 交流型公募展に応募された作品で気になった作品はありましたか？
扉の向こうに伝えたいメッセージなどもあればお書きください。

全ての作品がとても気になるものでした。きわめて細密であったり、繊細であったり、大変想像力を刺激されます。刑務所や死刑制度は、本来あるべき人と人とのコミュニケーションを断つ。その国のあり方は大きな疑問を抱かずにはられません。

どの作品も写実的で、こんな風に現実を細かく正しく見る目を持っている人たちの更生を心から願っているし、できると確信しています。

みなさんのエッセイが心に響きました。ご家族を思う心情に涙があふれそうでした。

それぞれに想いの詰まった素晴らしい作品で圧倒されました。表現というのは上手い下手ではなく（独りよがりでも）、手を動かさせる目に見えないエネルギーの強さです。表現者として刺激を頂きました。

想像力が強く働いていることを感じる作品が多かった。受刑者の内面性が表に現れる機会は著しく少なく、また、テーマが検閲の影響を受けがちなもので、その限られた中でも、もっとも自然な姿を垣間見ることができた。

お人柄がそれぞれに表現されており、「そんなことがあったんだ」「それは大変だったね」「おーすごい」など心の中で会話しているような気持ちになりました。

作品一つ一つに想いがあり、それが見る側に伝わっています。本気で人生やり直したい人を応援する社会になることを願います。

全体に色鮮やかで、一色と決められた絵にも鮮やかさを感じた。そこには、どんな心情が表されているのか、率直には感動できない戸惑いを感じた。それは自分の中にある「犯罪者＝悪」という思いが消えないからだろう。

作品に光や希望を感じました。ぜひその光を閉ざさないでほしい。社会復帰を祈っています。誰もが生きやすい社会を作っていけるようにしていきたいです。

Q 4. 二人の死刑囚とその支援者や関係者の展示について、感想をお書きください。

長谷川さん49歳の自画像、強く印象に残りました。ゴッホの自画像のようです。「憎むから本人に会う」人間の心の不思議、理解にふれることが出来ました。

なぜ色鉛筆が禁止になったのか、その背景をもう少し知りたいなと思いました。被害者と加害者の対話も簡単にことばではまとめられませんが、考えさせられました。命とは何か、ということなのだと思います。

ありきたりな言葉ではありますが、人の命を奪った者、家族を奪われたご遺族、命を奪われた者、命とは何か、罪とはなにか、償いとは何か考えました。答えは出ません。ただ涙が出ます。

どんな状況でも交流はできる。表現もできる。社会の中では交流や表現が容易だと思われがちだが実際それが保障されていなかったのではないか。それができる社会であれば、事件はなかったのかもしれない。

ご自身の弟さんを殺された加害者からの手紙に10年間答えることがなかった被害者のお兄様が面会を決意して会われたこと、話されたこと、その後、死刑廃止の活動をされたこと、すごいと思いました。加害者も被害者も長い時間をかけて本当に奇跡のような事実胸をうたれました。

死刑は本当に意味のあることなのか。私は常々考えていましたが、今回の展示をみてその考えに拍車がかかりました。世間の人々は死刑を応報感情で訴えているようにどうしても思えるのです。

犯した罪は消えないと思いますが、ゆるすこと、ゆるされることはできるのだと感じました。

被害者と加害者の対話は重大な犯罪であるほど難しいと思っていましたが、不可能なことではないのだと感じました。

表現が関係を始めたり続けたりするきっかけになると改めて思いました。

Q 5. 刑務所や受刑者に対する見方や考え方は何か変わりましたか？

受刑者に対して偏った眼を向けてしまう自分の浅はかさに気づき、こちらに足を運びました。受刑者の方々も外の世界を生きる我々のように幼き日の尊い思い出があり、家族があり、感情がある。その事を深く考えました。

変わりました。獄中にいる人々も私たちが何らかわらない想いを抱いているのだということに改めて気づかせられました。

思っていた以上に普通の人たちなんだなという印象と、思っていた以上に刑務所の生活に理不尽な制約が多いんだなという印象を持つようになりました。

考えが変わったかは、わかりません。刑務所が更生のために施設というよりは収容のための施設に近いということは判りました。変わるべきだと思いました。

受刑者という括りではなく、同じ絵、世界の中で生きている一人の人であるということに改めて感じました。

この展示を見るまでは、多少怖いという気持ちがありましたが、絵や作品を見て心が温かくなる気持ちがしました。

中の人でも本当に更生しようとしている人、ただ時間を過ごしている人で意味が違ふと感じました。今の司法制度が適性なのか含めて考える必要があると思います。

受刑者のほとんどは、刑期を終えていずれ社会に戻ってくるという認識が日本人には欠けているなと感じました。

作品に添えられた作者のコメントを読むと少し独りよがりを感じられるものも多く、「視野の狭さ」という点で自分との共通点を見た気がする。

最後に、「刑務所アート展」全体については、良い時間だった、もっと見たい、継続開催してほしい、たくさんの人に見てほしいなど、肯定的な感想をたくさんいただきました。ご来場いただいた皆様ありがとうございました。

面会体験記

3月29日、高校2年生の春休みに人生で初めて東京拘置所を訪れた。

コンクリート打ちっぱなしで建築された東京拘置所は入り口から無機質さを感じさせた。エントランスへ入ると直ぐに面会手続きのための窓口へ向かい、所定の申込用紙に名前や住所などを記入して面会を申し込む。窓口では、拘置所で働く職員と私たちとの間にもアクリル板が設置されており透明ながらも「塀の中」と「外」を意識させた。申込用紙を提出し、約5分程でパネルに私たちの面会番号が表示されたので面会室へと向かった。待ち時間には拘置所内の売店を見学した。まず、商品の品揃えの多さに驚いた。面会室までの道のりは7分程であったと思う。

ロッカーに荷物を預け身体検査を受けた。その際、初めて使用したロッカーが壊れていて荷物を収容することが出来なかったのだが、刑務官の方はおざなりな対応であった。そこで改めて、「拘置所にいるのだ」という実感をし、自身の中で緊張感が走った。身体検査が終わると、長い廊下を歩き、エレベーターに乗り面会室へと向かう。廊下はまるで夜の病院のような雰囲気であった。外は雲一つない晴天で眩しいくらいだったのに対し、廊下には数えられるほどの蛍光灯が等間隔にあるだけで外界の光を感じることは出来なかった。エレベーターを降り、面会室に入室後2分程で今回の面会の相

手であるA氏と1人の刑務官がやって来た。

面会室にはパイプ椅子3脚のみ、机はステンレスのよな素材でありとても冷たかった。部屋は狭く、「無機質」以外の言葉で表すことは難しい。私は、A氏の第一印象として「普通のおじいちゃん」という印象しか持たなかった。確かに、彼は70代後半であるため私が持った印象は適切だ。しかし、彼が「犯罪者」であることに対し自身が無罪を持っていたため「普通のおじいちゃん」という印象を持ったことに驚いたのである。面会中、目を見て話してくれたり、明らかに年下の私に対しても敬語を使ってくれた。面会自体は約15分程で終了した。

近年、マスメディアが世論の形成に与える影響は大きい。他方で、多くのメディアで犯罪者が如何にも極悪人かのような報道が為され、多くの国民が犯罪者＝極悪人と妄信する。これは受刑者が出所後、一般市民からの差別の眼差しを受ける危険を孕む。

私は実際に受刑者と対話したことで、必ずしも犯罪者と極悪人がイコール関係ではないと考える。犯罪者である前に彼らも人間であることを身をもって感じたためだ。人間らしさをA氏との対話を通して濃く感じる事が出来たのだ。最後にはなるが、私のように実際の「生の声」を聴くなどの受刑者を「正しく知る」機会が、より多くの一般市民に提供される事を望む。

五十嵐亜利沙（妻）による

育児日記



理事長長妻ブログ

長男Aは3月で9歳になりました。誕生日は、マザーハウスのスタッフさん達と一緒に祝いをしました。4月から4年生です。

長女Kは幼稚園を卒園しました。春から1年生です。スイミングスクールの進級テストのクロール（ヘルパー付き）が難しいと言っているので、近くの体育館で特訓をしました。そのおかげで合格しました。縄跳びも全くなかったのに、いつの間にか上手になっていたり、何事にも諦めずに練習をするので感心しています。

久ぶりに夫と次女Rが朝から外出しました。帰宅してRが「私今日たくさんお店に行ったの」と言うので、夫はどこに行ったのか聞いたら「Kさんの面会をしに前橋刑務所と、Tさんの判決を聞きに裁判所」とのことでした。今まで遊んでくれていたKさんとTさんが違う場所にいることにRはまだ何もわかっていないと思うので、「5歳ではなかなか経験できない場所に行けてよかったね」と伝えました。



三女のRは色々な言葉を話せるようになったのですが、お兄ちゃんお姉ちゃんの真似をして「ばばあ」と言ってきました…。

逆風と波の中で

1 逆風と波に悩まされる

人生はある意味で、「湖の上を小舟に乗り向こう岸（目的地）に漕いでいく」ようなものである。天気予報を調べて今日は大丈夫だと思い、太陽の日差しを浴び、心地よいそよ風に押されながら美しい湖の上を順調に漕いでいく。歌をうたい生きる喜びを神に感謝する。このような順風満帆の毎日でありたい。

しかし、予期しない天候の変化により、逆風と波に襲われ、舟が転覆するほどの困難に陥ることがある。そんな時にどう対応したらよいのか。帆をおろし、舟に入った水をかい出し、積み荷を舟の外に捨てたり、あらゆる努力を試みるであろう。それでもどうにもならない時はどうしたらよいのか。もちろん、神に助けを求める以外に方法はない。

2 神は近づいて来てくださる

最近、ある牧師の息子さんの証を聞いた。

「僕が10歳の時に父が心臓まひで亡くなりました。

悲しみと絶望に打ちひしがれ僕は自分の部屋でベッドに座って泣いていました。すると、ドアが閉まっているのに誰かが部屋に入ってきたのです。一目でその方がイエス様だとわかりました。その方は僕の脇に座り、『わたしはいつもあなたと共にいる。だから安心なさい』と優しく語って去っていきました。その瞬間、悲しみは喜びに、絶望は希望に変わりました。僕がニコニコして葬儀に参列していたら、『きつと、お父さんが急に亡くなって、頭がおかしくなっちゃったのだろう』と周りの人たちは思ったそうです」

数年後、彼が別の問題で苦しんでいた時に、イエスはもう一度現れて慰めてくれたと言っている。このような証をこれまで10人以上の知人から直接に聞いている。ある教会員は、長年苦しんできた全身のアトピー性皮膚炎が、前の晩に自宅に現れたイエスがその人の頭に手を置いた瞬間に完全に治ってしまったと、興奮して日曜日の礼拝で証してくれた。

悩み苦しんでいる人に神は近づいて来てくださる。

3 私とイエスとの出会い

実は、私も実在のイエスとの出会いを46歳の時に体験している。すでに洗礼を受け、人々に福音を伝え、教会では聖書を教えていた。でも、いろいろな問題に悩み苦しむ、信仰が大きくぐらついていた時のことである。

自宅の近くの喫茶店で帰宅前に、いつものように聖書を読み、気持ちを落ち着かせようとした。マルコ8章の「まだ、悟らないのか」(17節)と「まだ悟らないのか」(21節)の箇所を読み、同じ言葉が2度も繰り返されている意味を思いめぐらしていた。突然、全身が非常に温かいものに力強く包まれ、止めどなく涙があふれてきた。喜びの涙であった。姿を見ただけでもなく、声を聞いたわけでもないが、イエスが私の目の前におられることをありありと実感した。一瞬ではあったが、天国の栄光を垣間見た。

「イエス様が共におられるからどんなことが起きても大丈夫なんだ。イエス様が私を天国へ連れて行ってくれるのだ」と心の底から悟った。喫茶店から出ると、街が天国のように見えた。枯れ木の街路樹がもろ手を挙げて神を賛美していた。道行く一人一人が神の子と

して生き生きと輝いていた。私が悩んでいた問題も間もなく解決してしまった。

その時から、私にとって、イエスの実在(臨在)は、信仰でがんばって信じる存在ではなく、疑いようのない本当の事実になった。

「、、とこころが舟は、もうすでに陸から数丁も離れており、逆風が吹いていたために、波に悩まされていた。イエスは夜明けの4時ごろ、海の上を歩いて彼らの方に行かれた。

弟子たちは、イエスが海の上を歩いておられるのを見て、幽霊だとおじ惑い、恐怖のあまり叫び声をあげた。しかし、イエスはすぐに彼らに声をかけて、『しっかりとするのだ、わたしである。恐れることはない』と言われた。

、、舟に乗り込むと、風はやんでしまった」

(マタイ14:22-33)

「見よ、わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいるのである」

(マタイ28:20)

ささき みつお(弁護士)

看護師 中谷先生による

健康相談窓口

皆さんこんにちは。お元気ですか？

私は、3月半ばから体調を崩し、薬の飲みながら回復を待っていました。本学には附属高校があり、その高校生を対象に大学の授業を体験してもらうために模擬授業を担当することになっていました。前日から咽喉痛で声がほとんど出なくなり、咳込みもひどく、夜も眠れませんでした。しかし、一応プロです（笑）。模擬授業の時、マイクを使い、何とか90名ちかい学生さんには声を届けられました。しかし、その反動で1週間、声も出せなくなり、咳はさらに悪化してしまいました。

耳鼻咽喉科を受診し、咽頭、喉頭付近の細菌感染がかなりひどいと言われました。その際、プレドニンという副腎皮質ホルモンも抗生剤、咳止めとともに出されたのです。徐々に改善すると思っていたのですが、全く良くなりません、これは「肺炎も起こしてない？」と判断し、その1週間後に呼吸器病院を受診して胸部CTを撮ってもらいました。

結果は、肺炎像もなくホツとしたのですが、その病院でさらにプレドニンを増量されることになりました。

その薬を飲み続けていくと、副作用で身体がむくむくしてきました。何だか、顔は風船のように膨らみ、身体つきも丸くなってきました。あまりに顕著なのでびっくりし、体重を測ると、5kg増えていました。ひえー！と思いい、怖くなり、症状も少し和らいできたのもう薬をやめようと思いい、すべてやめました。そうした次の日、体重は5kg減っていたのです。やれやれ、びっくりですし、薬の副作用の怖さを痛感しました。本当は、プレドニンなどの薬は自己判断でやめることは決しておすすめはしません。ただ、医師の言われる通り、内服し続けることが果たして正しいのか？と思う事例でもありました。

今回の事を通じて、施設で生活される皆様の、健康を害した時の体制が整っていないことに対する不安にも共感もいたしました。と同時に、自分の身体に異常があった場合、医師の診察を受けて治療をしてもらうことしかできないことですが、自身で健康に関する知識を持ち合わせていないと、薬漬けになったりするのではないかと、思った次第です。

実際に、私の知り合いにうつ病で何十年もパキシルという薬を飲んでおられる方がいます。その知り合いは、看護師で、もちろん医学知識もあります。しかし、うつ病を発症していた10代の時は、パキシルの副作用もそこまで深刻だとは考えてはいませんでした。ある程度年齢を重ね、うつ病も完治にちかい状態とな



り、パキシルの量を減少して、薬もやめようとしたところ。ところが、何度も断薬を試すのですが、2週間経過する頃には手先の震え、頭痛が著明で生活にも支障が出てしまい、結局は薬を一生飲み続けるしか選択肢がないと嘆いておられました。治療のために使われる薬も必ず、主作用だけでなく副作用もあります。

これから、皆さんには、自分自身が飲んで
いる薬の主作用、副作用にも目を向けて知っ
て欲しいと思います。可能でしたら、担当者
に薬名だけでも尋ねるようになってください。

五十嵐亜利沙（妻）による ラブリーDAY

マザーハウスのスタッフさん達と一緒に、事務所近くの公園の桜の下でお弁当を食べました。

外で食べるご飯は美味しかったです。

そして、久しぶりに事務所に入ったら、六畳一間から始まったマザーハウスがここまで大きくなったことに感慨深い気持ちになりました。



(偶数月掲載) 専門インストラクター ニロ先生による

プリズムアート倶楽部

家からバスで行く所に、大きな公園があり、公園には丘が有って、芝桜の公園として有名な場所になっています。

薄いピンク、濃いピンク等々の芝桜が一面に咲くと、大地に描かれた綺麗なグラデーションの絵みたいでした。

公園へ来る人達も、芝桜を見ながら、とても楽しそうでした。皆さんは、どのような思い出が有りますか？

では、準備が出来たら、描いてみましょう。

描き始める前に：

■絵は、自分の中のイメージを表現する事が大切なので、ハンドペイントの良さを生かして、自由に描いて下さい。文通をされている方は、便箋や封筒に描くと、楽しく可愛いアクセントになりますので、ぜひお試し下さいね。

■このコーナーは、絵画の模写を体験するもので、絵画技法の習得を目指すものではありません。模写（アレンジOK）の投稿を募集中です。当技法についての詳細を知りたい方、また、作品発表等について考えている方は、規定が設けられているため、必ずご相談下さい。

今月のテーマは

「丘の芝桜」



■ボタニカルファインアート技法とパステルアートのコラボレーションで描いていますが、ボールペンや鉛筆等、入手し易い文具で描いて頂いて大丈夫です。ボールペンは、PILOTの細いペン等が推奨されていますが、描きやすいと感じるもので良いと思います。鉛筆は、B以上のもので濃く描くと、質感も柔らかく、描きやすいです。HBやH等ですと、固い質感の為、描きにくいかもしれません。



描き方

■ 花弁は、細長いハートを描くような気持ちで、先端が2つに分かれる様に描きます。

■ 花弁は、5枚描いてください。上を3枚描いて、下を2枚という風に描いていくと、5枚の花弁が綺麗に描けます。

■ 小さいお花を、一つの塊になる様に沢山描いて、周囲に細く先端を尖らせた葉っぱを描き入れ、芝生に咲く芝桜を表現します。

いかがでしたか？

※次回は6月号に掲載致します。

回復プログラム 実践

■受刑者の皆さんにお送りしている「回復プログラム」冊子より抜粋して掲載しています。繰り返し取り組んで頂き、自分自身を知ることにつけて頂けたら幸いです。

■「回復プログラム係」宛にお手紙で回答を送って頂ければ、スタッフや、社会のボランティアによる正直なコメントを返信させていただきます。

【第12回目】

・社会に出るために、社会的感覚になる。

1. 社会に生きる人たちの感覚、価値観を知るために、どうしますか。
2. 社会に出ても、悪、欲に惑わされないようにするために、どうしますか。
社会の中でぶれない自分であるためには？

※今回の第12回目で「回復プログラム実践」は終了です。ぜひ繰り返し取り組んでいただければと思います。

行事予定

4月19日	午前10時50分～	中央大学にて講義
4月20日	午後18時～	通信簿研究会
4月21日	午後18時～	APS研究会京都
4月25日	午前10時45分～	国土館大学にて講義
4月27日	午後13時30分～	渋谷更生保護女性会にて講演
4月28日	午前10時～	宇都宮地方裁判所にて情状証人
5月6日	午後14時～	共生人権講座 (聖イグナチオ教会内岐部ホール404号室)
5月12日	午後14時～	芝大門人権講座 講義

受刑者の皆さんへお知らせ

- 移送・出所される方は必ずご一報下さい。MLP（文通）に参加している方は文通相手へのお手紙のみ出して頂ければ大丈夫です（差出人欄の住所で確認できるため）。
- お問合せが多い内容（例：文通相手の追加を希望したのにまだ決まっていない等）は、返信にかえてお知らせ欄で回答させて頂くことがあります。毎月ご確認頂くようお願い致します。
- MLP ペア決め現状：文通相手のいない受刑者を優先しておりますが、4か月以上お返事が届いていない受刑者の方は文通相手の追加を承りますので、「文通担当」宛にお手紙お出し下さい（お時間かかる場合があります）。
- 冊子 NEXT は寄贈終了、サインズは休刊に伴い、たよりへの同封が終了しました。
- フランシスコ事業部は、会費を全額納付された方のみのご利用となります。フランシスコ事業部を利用しない方は、会費の分納が可能です。なお、マザーハウスに送られた切手やお金は返還できません。あらかじめ資料をよく読み、計画的に送られるよう何卒お願い致します。
- 会費やフランシスコの費用を切手で納める場合（84 円以上の切手のみ使用可）は、1 枚につき現金交換手数料 10 円がかかります。※郵便局の価格改訂に伴い、手数料が 1 枚 5 円から 10 円に変更になりました。
（例）100 円切手× 5 枚の場合：
500 円－手数料 10 円× 5 枚分 =
受領額 450 円
- 下記に当てはまる場合は、事務局までお知らせ頂きたく、宜しくお願い致します。
 - ・ 突然たよりが送られなくなった。
 - ・ 刑期（出所日）が変更になった。
 - ・ 入会申込書もしくは会費を送ってから 2 ヶ月が経過してもマザーハウスから何も届かない。
 - ・ 聖書（寄贈された中古のものです）の送付を希望する（送料 800 円分が必要です）。
- たよりでは、投稿文以外の普段のお手紙から抜粋して掲載することがあります（受刑者の皆さんは、入会申込書に同意欄があります）ので、「掲載してほしくない」というお手紙・絵画につきましては、都度「掲載不可」と明記して頂きたく、宜しくお願い致します。

編集後記 by 編集局

今月号は記念すべき 100 回目のたよりです！いつもたよりを読んでくださっている読者の皆さま、イラストや手紙、記事を寄せてくださる皆さま、たよりに関わってくださっている皆様に感謝です。



マリアコーヒー (ルワンダ・コーヒー)



製造から販売まで、元受刑者が携わっております。※4月1日より価格を改訂させていただきました。

コーヒー(粉) 200g …1404円(税込)
コーヒー(豆) 200g …1404円(税込)
カフェドリップ 10g(1杯分) …162円(税込)

継続して購入・販売してくださっている皆様(順不同)

カトリック茅ヶ崎教会／カトリック北仙台教会／カトリック所沢教会／カトリック浜松教会／カトリック東山教会／カトリック布池教会／カトリック菊名教会／カトリック中和田教会／カトリック新子安教会／カトリック碑文谷教会／カトリック桃山教会(平和環境部)／カトリック東仙台教会／カトリック春日部教会／カトリック足利教会／カトリック神田教会／カトリック太田教会／カトリック大分教会／カトリック西千葉教会／カトリック下井草教会／カトリック新潟教会／カトリック多治見教会／カトリック芦屋教会／カトリック鷺ノ宮教会／カトリック松戸教会／ドン・ボスコ社／クリスト・ロア宣教修道女会／日本カトリック神学院／聖母訪問会

ルワンダの祈り



ルワンダでは、1994年、フツ族によるツチ族の大虐殺がありました。史上稀に見る残虐な内戦によって、ルワンダの人々は心身ともに非常に深い傷を負います。しかし内戦終了後、恨みや憎しみから、復讐が復讐を呼ぶ状況に陥りかねない中、ツチ族の人々は、復讐ではなく、和解と共生を選択しました。マリア・コーヒーは、この和解と共生の地から届けられた生豆を使用しております。

マリアの紅茶



オーガニック
純スリランカ産セイロンティー

50g(2g入り25袋) …1080円(税込)

マリアコーヒー&マリアの紅茶のご注文はウェブサイト・メール・FAXにて承っております。

FAX: 03-6659-5270



ご注文・ご支援詳細

ラウレンシオ (便利屋業)

元受刑者の就労支援の一環として、不用品処理、遺品整理、掃除などをさせていただきます。お見積りは無料です。

*2020年12月より、株式会社ルツに移行しました。

TEL: 03-6659-2110

FAX: 03-6659-2180

メール: info@ruth-llc.co.jp

古本募金 (きしゃぼん)

書籍やDVDを下記にご寄付頂くと、マザーハウスに還元されます。

送り先:

〒358-0053 埼玉県入間市仏子916

マザーハウス きしゃぼん係

TEL: 0120-29-7000

*マザーハウス事務所への送付はご遠慮ください。

獄中POSTシリーズ

引き継ぎ作業中のため、一時的に活動を中止しております。再開次第お知らせ致します。

ご支援

正会員(一口5000円/年) 賛助会員(一口3000円)
社会復帰支援(ご寄付)を随時募集しております。

振込口座名: トクヒ)マザーハウス

郵便振替口: 00170-0-586722

みずほ銀行: 新宿支店 普通口座 2376980

*info@motherhouse-jp.org 宛に内訳をご送付願います。

洋服等の物資の送付先:

〒130-0024 東京都墨田区菊川1-16-18-1F

マザーハウス TEL: 03-6659-2110

随時ボランティアの方を募集しております。

TEL: 03-6659-5260

メール: info@motherhouse-jp.org

マザーハウスたより 2023年4月号

発行日: 2023年4月15日 発行責任者: 五十嵐 弘志

〒130-0024 墨田区菊川1-16-18-3F NPO法人マザーハウス